

わたしの「生理」× みんなの「生理」
そのモヤモヤを話してみよう

「生理」のこと、誰かと話したことありますか？
なんとなく共有しづらくありませんか？
では、「生理」のことを話せない背景にあるモヤモヤはなんでしょう？
このトークイベントでは、横浜の大学生たちによる「生理」へのアプローチを中心に、
遠く感じるケニアの「生理」をめぐる取組を交えて、
性別も国境も超えた「生理」をめぐる経験や思いを分かち合います。

日時： 2026 年 12 月 6 日(日) 13 時～15 時

会場： 横浜市立大学みなとみらいサテライトキャンパス 第 1･2 会議室
（アクセス）
横浜市西区みなとみらい 2-2-1 横浜ランドマークタワー7 階
・桜木町駅(JR･市営地下鉄)から動く歩道で徒歩 5 分
・みなとみらい駅(みなとみらい線)から徒歩 3 分

参加費： 無料 （事前申込制／定員 50 名）

【参加のお申し込み】
QR コードをスマートフォン等で読み取り、専用の応募フォームに
必要事項をご入力の上、お申し込みください。
＊申込締め切り: 11 月 30 日(月)

主催 認定 NPO 法人日本ハビタット協会

協力 フェリス女学院大学、横浜市立大学

後援 独立行政法人国際協力機構、公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会

クロストーク　生理はみんなのもの

■　パネリスト紹介



マリ　クリスティーヌ（認定 NPO 法人日本ハビタット協会副会長）

モデレーター。
国連人間居住計画（国連ハビタット）親善大使（2000 年～2015 年）、愛・地球博広報プロデューサー、東京オリンピック・パラリンピック委員会委員などを歴任。その経験を活かし、女性や子どもの人権、地域活性化、多文化で彩り豊かな地域づくりについての講演を各地で行う。



平井 裕香（フェリス女学院大学准教授/グローバル教養学部文化表現学科）

日本の近現代小説を研究しながら、ジェンダーやセクシュアリティ、母と娘の関係にも注目。
学生の鈴木文乃さんによるエッセイ「チョコレート禁止令」にスポットを当て、本作で描かれる若い女性が自己の生理を正しく理解するために必要な出会いやサポート、その理解の共有によって娘の現在の心身が母に受け止められるプロセスを取り上げながら、世代や性別を問わず、すべての読者に深い気づきを与えるメッセージを紐解きます。

【チョコレート禁止令】
鈴木 文乃（フェリス女学院大学文学部コミュニケーション学科）
生理が重いことをきっかけに、高校二年生のタイミングで婦人科を受診。「鉄欠乏性貧血」という診断を受け、先生から好きだったチョコレートを控えるように言われてしまったエピソード。



エッセイ
「チョコレート禁止令」





阿部 環　（横浜市立大学医学部看護学科）
石原 未希（横浜市立大学医学部看護学科）
＊監督指導： 鈴木 佳奈（横浜市立大学助教/医学部看護学科）

ケニアに現地入りし「生理に関する住民の意識・行動調査」を実施。
現地の大学生へのインタビューを通じて、先行研究だけでは見えてこなかったリアルな現状を肌で感じ取る。親世代に残る「月経のタブー」が現代の若者の間でどう変化しているかを報告するとともに、そのような変化の中ジェンダーにやさしいコミュニティづくりにとって必要なことについて現地での体験談を交えながら話します。



篠原 大作（日本ハビタット協会理事／事務局長）

「生理環境改善による女性のエンパワメント事業」の統括マネージャー。
姉と妹がいる家庭環境であったものの生理を全く意識せず過ごし、事業が始まって初めて生理ナプキンに直に触る。生理について何も知らなかったものの、事業運営を通して起きた自身やケニア人男性たちの生理に対する意識や行動変化について語ります。

― お問い合わせ ―
認定 NPO 法人日本ハビタット協会
東京都千代田区隼町 2-12 藤和半蔵門コープ 103 号
Tel&Fax：03-3512-0355　Email:info@habitat.or.jp